

日本造園学会 2020年全国大会
学生公開デザインコンペ
報告書

目次

1. コンペの概要	3
1.1 テーマ	3
1.2 審査委員	3
1.3 募集対象	3
2. 応募者数・作品提出数	4
3. 審査結果	4
4. おわりに	5
資料1 募集要項	6
資料2 ポスター	10
資料3 受賞作品	12
【最優秀賞】 Hsuan Lu、笹原洋平（千葉大学）	12
【優秀賞】 荒巻友里恵、伊藤未羽、柯佩怡、陳宣岐、舟田温子（兵庫県立大学大学院）	13
【優秀賞】 岡本典子、杉本莉菜、中川愛美（奈良女子大学）	14
【優秀賞】 石川里桜、史怡文、陳杰、李虹俣、厲陽（千葉大学）	15
【佳作】 山路依梨菜、鯉川哲平、霍広琦（千葉大学）	16
【佳作】 張珺眉、羅稀文、山田京佳、文麒森（東京農業大学、千葉大学）	17
【佳作】 山田陽太、大谷理個、濱田千織、中野紗希（立命館大学）	18
【佳作】 中村幸介（神戸大学）	19
【佳作】 和出好華、有森実希、柳瀬千裕、五十嵐萌乃（早稲田大学）	20
【佳作】 YANG RUOCHEN、服部けやき、尾石光、ZHAO JIANYE、LIU JIARUI（千葉大学）	21

1. コンペの概要

2020年度日本造園学会全国大会の一環として、「食」とランドスケープというテーマで学生公開デザインコンペを実施した。

1.1 テーマ

人のエネルギー摂取源である「食」とそれを支える農業や漁業は不可欠な存在であり、近年提唱された循環型社会の形成や美しい国土づくりとの関わりからも、産業景観にはランドスケープ的な思想が特に必要と考えられる。淡路島は兵庫県南部に位置している。古くから「御食国」として朝廷に食料の供給をしており、現在でも「食」をキーワードにした観光が盛んで、山、海、棚田などの景観資源を生かした地域経営も推進されている。また、淡路島は農山漁村をベースに発展してきた自然環境の豊かな場所であるが、関西の中心都市から一時間あまりで移動が可能のため、観光・レクリエーションに適している土地であると同時に、都市部で働く人々の居住場所としてもよい環境であると考えられる。一方、同地域の現状は日本全国の地方都市と同様に、高齢化と人口減少が進んでいる。また、就農人口の減少による耕作農地の管理放棄や、過度な開発による海の養殖産業への影響など、淡路島の農山漁村の生活文化やアイデンティティーのある景観の喪失・質の低下といった、特色のある地域社会の継続性にかかる問題点が顕在化しており、経済的に自立し、持続可能な地域となることがより一層求められている。今回の学生公開デザインコンペでは、淡路島の北部に位置する淡路市を対象とし、「食」とランドスケープをテーマに、ランドスケープの視点から対象地の地域振興につながる提案を募集した。

1.2 審査委員

淡路市のまちづくりを担ってきた淡路市役所と淡路島の食、観光資源等に精通している編集者、さまざまなプロジェクトに関わる専門家と実務者に審査委員を依頼した。一次審査、二次審査ともに5名の審査委員が担当し、全国大会運営委員会からコンペ担当者が事務局として参加した。

【審査委員長】

中瀬 勲（兵庫県立淡路景観園芸学校学長/兵庫県立人と自然の博物館館長）

【審査委員】

岩井 貴代（株式会社 京阪神エルマガジン社メディアビジネス本部副本部長/一般社団法人淡路島観光協会戦略室 アドバイザー）

沈 悦（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授）

西辻 俊明（株式会社現代ランドスケープ代表取締役社長/一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部長）

眞嶋 加由里（淡路市企画情報部長）

村上 修一（滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授）

1.3 募集対象

募集対象は、登録時点で高校生、専門学校生、短大生、大学生、大学院生の個人またはグループとした。

2. 応募者数・作品提出数

応募は事前登録制とし、登録期間は2020年1月31日（金）から4月17日（金）、作品提出は5月1日（火）から5月8日（金）必着としたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の緊急事態宣言に伴い、移動制限や大学キャンパスが使用禁止となる事例が発生したため、作品提出および公開プレゼンテーションの方法を一部変更した。4月24日（金）までにコンペ事務局へ事前連絡を行ったうえで、ポスター形式、データ形式の提出も受け付けた（その場合は提出日を5月6日17時とすることでパネル作品提出者との公平性を保った）。例年に比べてイレギュラーな形態となったが、登録数や応募数には大きな問題はなかった。

【登録数】 79 団体（大学生部門 77 団体、高校生部門 2 団体）

【作品提出数】 55 作品（大学生部門 53 作品、高校生部門 2 作品）

3. 審査結果

一次審査会は5月10日（日）に審査委員によって非公開で行い、10作品を選出した。緊急事態宣言により、会場（淡路景観園芸学校）に来校できない審査員についてはデータによる事前審査を依頼した。5月22日（金）に公開プレゼンテーションを行い、二次審査会を行う予定だったが、学会自体がオンライン開催となったため、公開プレゼンテーションの代替として、入選者には10分間のプレゼンテーション動画を作成してもらった。二次審査会は非公開で行い、10作品のプレゼンテーション動画をオンラインで閲覧したのち、審査委員による15審査を行い、最優秀賞1作品、優秀賞2作品、佳作7作品を決定した。一次審査を通過した作品は、地域経営、地域貢献の視点を含んでいる点が評価された。最優秀賞の「循環する食の源風景の結び方」は、これからのポストコロナ時代における中山間地域の方向性を示唆し、セカンドライフ、長中期滞在地としての可能性について提案した点が高く評価された。優秀賞には、耕作放棄地を活かした新たな空間像を示し、動画が高く評価された「棚田三昧」、ため池のかいぼりをテーマとした新たな空間像の提案と持続可能な食の環境基盤を提案した「Nursery Pond」が選ばれた。

【最優秀賞】

Hsuan Lu、笹原洋平（千葉大学）

【優秀賞】

荒卷友里恵、伊藤未羽、柯佩怡、陳宣岐、舟田温子（兵庫県立大学大学院/淡路景観園芸学校）

岡本典子、杉本莉菜、中川愛美（奈良女子大学）

【佳作】

石川里桜、史怡文、陳杰、李虹俣、厲陽（千葉大学）

山路依梨菜、鯉川哲平、霍広琦（千葉大学）

張珺眉、羅稀文、山田京佳、文麒森（東京農業大学、千葉大学）

山田陽太、大谷理個、濱田千織、中野紗希（立命館大学）

中村幸介（神戸大学）

和出好華、有森実希、柳瀬千裕、五十嵐萌乃（早稲田大学）

YANG RUOCHEN、服部けやき、尾石光、ZHAO JIANYE、LIU JIARUI（千葉大学）

4. おわりに

今回は緊急事態宣言が発令されたこともあり、事前調査や成果品制作において大きな制約があったにも拘わらず、淡路市の課題等について綿密に分析をされていた。また、今回初の試みとなった動画によるプレゼンテーションにおいても、プレゼンテーション能力、動画作成技術の高さがみられ、このコンペを実施した意義は大きいといえる。

資料 1 募集要項

全国大会案内：学生公開デザインコンペ募集要項

2020 年度日本造園学会全国大会 学生公開デザインコンペ 募集要項

公益社団法人日本造園学会では、2020 年度全国大会の一環として、以下の募集要項により学生公開デザインコンペを実施いたします。ふるってご応募くださるようご案内申し上げます。本要項の詳細情報は、学会ホームページ <https://www.jila-zouen.org> で、随時お知らせいたします。

1. デザインテーマ

「食」とランドスケープ

2. 公開デザインコンペの趣旨

産業景観はランドスケープの重要な資源のひとつとして挙げられます。人のエネルギー摂取源である「食」とそれを支える農業や漁業はどのような時代においても不可欠な存在であり、近年に提唱された循環型社会の形成や美しい国土づくりとの関わりからも、ランドスケープ的な思想が特に必要だと考えられます。

兵庫県南部に位置する淡路島は、古くから「なげつくだ御食国」として朝廷に食料の供給をしていました。その歴史をふまえて発展してきた淡路島は、現在でも「食」をキーワードにした観光が盛んであり、山、海、棚田などの景観資源を生かした地域経営も推進されています。また、淡路島は農山漁村をベースに発展してきた自然環境の豊かな場所がありますが、関西の中心都市から一時間あまりで移動が可能のため、観光・レクリエーションに適している土地であると同時に、都市部で働く人々の居住場所としてもよい環境であると思われま

す。一方、同地域の現状は日本全国の地方都市と同様に、高齢化と人口減少が進んでいます。特に就農人口の減少による耕作農地の管理放棄や、過度な開発による海の養殖産業への影響など、淡路島の農山漁村の生活文化やアイデンティティーのある景観の喪失・質の低下、特色のある地域社会の継続性が問題となっており、経済的に自立し、持続可能な地域となることがより一層求められています。

今回の学生公開デザインコンペでは、淡路島の北部に位置する淡路市を対象とし、「食」とランドスケープをテーマに、ランドスケープの視点から提案を行うものとします。この提案を通して対象地の地域振興につながるアイデアが生まれることを期待しています。

問題設定、対象地の選択、提案の内容については柔軟に捉えて結構です。実現可能性や実現期間についても、妥当性を自ら判断してください。

学生の皆様のチャレンジを期待しています。

3. 対象地

淡路市内の地域とします。詳細は、学会 HP でご確認ください。

<参考資料リンク>

・淡路市のプロフィール（淡路市 HP）

<https://www.city.awaji.lg.jp/soshiki/koushitsu/siseiyouran.html>

・淡路市都市計画マスタープラン（淡路市 HP）

<https://www.city.awaji.lg.jp/soshiki/toshikei/toshikeikakuka3.html>

全国大会案内：学生公開デザインコンペ募集要項

4. 応募条件

- 1) 応募資格は高校生、専門学校生、短大生、大学生、大学院生の個人またはグループとします。登録時に学生であれば応募時（作品提出時）に社会人でもかまいません。なお、高校生は一次審査のみとし、一次審査終了後、入賞者に連絡します。
- 2) グループの応募は 5 名以内とし、グループの場合は代表者を 1 名選定していただきます。
- 3) 専門分野は問いません（ランドスケープ、都市計画、土木、建築、デザイン等）。
- 4) パネルは日本語または英語、プレゼンテーションは日本語とします。英語のみを使用する者が応募する場合は、日本語によるプレゼンテーション（質疑応答を含む）が可能な者と組んで、グループで応募してください。
- 5) 兵庫県立淡路景観園芸学校で行われる令和 2 年 5 月 22 日（金）の二次審査会（公開プレゼンテーション）と、兵庫県立大学神戸商科キャンパスで行われる 5 月 23 日（土）の表彰式への参加が必須です。グループによる応募の場合は、二次審査会および表彰式への全員の参加に努めてください。
- 6) 応募作品は未公表でオリジナルなものに限ります。アイデアや表現などにおける他者の作品との極端な類似が見られるなど、作品のオリジナリティが疑われる場合は、その作品を失格とする場合があります。

5. スケジュール

- 1) 登録期間 令和 2 年 1 月 31 日（金）～ 4 月 17 日（金）
- 2) 作品の受付 令和 2 年 5 月 1 日（金）～ 5 月 8 日（金）（必着）

- 3) 一次審査会 令和 2 年 5 月 10 日（日）
- 4) 二次審査会 令和 2 年 5 月 22 日（金）
- 5) 審査結果発表・表彰式
令和 2 年 5 月 23 日（土）

6. 登録方法

- 1) 応募には事前登録が必要です。上記の登録期間中に必要事項を記入の上、「公開デザインコンペ登録希望」をタイトルに入れたメールを送付してください。登録希望のメールを送付された方には、登録番号を発行します。応募希望者の登録番号受理をもって登録完了とします。
- 2) 必要事項
応募者氏名、所属（グループの場合は代表者氏名および構成員の氏名、全員の所属）、代表者の住所、Eメールアドレス、電話番号
- 3) 登録の注意事項
 - ・ 期間を厳守してください。期間外の登録は受け付けません。
 - ・ 登録受付の返信メールが届かない場合は登録期間内に問い合わせてください。
 - ・ 登録メールの送信記録を自分で保存してください。

7. 質疑応答・現地見学会

現地見学会は行いません。提供資料を参考にし、対象地の調査、写真撮影等を適宜行ってください。質疑についてはホームページ上で回答を公表します。対象地およびその周辺地域には多くの市民が仕事や生活をしており、道路は交通量が多いところや道路幅の狭い農道等もあります。事故を起こしたり迷惑をかけたりすることがないように、良識ある行動をお願いします。

8. 提出物

- 1) パネル
A1 サイズ（サイズ 594mm×841mm）用紙 2 枚まで。横長方向で使用し、5 mm 程度の厚さのパネルに貼って提出してください。
（パネルにフレームを付けないでください）
すべてのパネル裏面右上隅に「登録番号」（サイズ 5 cm×5 cm）を記載してください。
- 2) 電子データ
パネルと一緒に作品の電子データを CD-R または USB メモリで提出してください。データは PDF 形式、High Quality で作成してください。お送りいただいた媒体は返却いたしませんのでご注意ください。
- 3) 応募作品の条件
手描き、CAD、CG、模型写真等、平面なグラフィックが含まれていれば形式は問いませんが、審査の際の視覚性を十分ご配慮ください。具体的な空間デザインとして評価できる表現を必ず入れてください。
- 4) 二次審査
一次審査の通過者は別途パネルの内容に関する PowerPoint 等のプレゼンテーションのデータ提出が必要になります。
- 5) 注意事項
 - ・ 応募者を特定できるような記述は避けてください。
 - ・ 図や文字を貼り付ける場合は、剥がれ落ちないようにしてください。輸送中に剥がれたものについては、事務局で責任は負いません。

9. 表彰の内容

- ・ 最優秀賞（1 点） 賞状、賞金(5 万円)
- ・ 優秀賞（2 点） 賞状、賞金(2 万円)
- ・ 佳作（7 点程度） 賞状、賞金(1 万円)

10. 審査委員会

- ・ 審査委員長：
中瀬 勲（兵庫県立淡路景観園芸学校 学長/兵庫県立人と自然の博物館 館長）
- ・ 審査委員：
岩井 貴代（株式会社 京阪神エルマガジン社 メディアビジネス本部 副本部長/一般社団法人 淡路島観光協会戦略室 アドバイザー）
沈 悦（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授）
西辻 俊明（株式会社 現代ランドスケープ代表取締役社長/一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部長）
真嶋 加由里（淡路市 企画情報部長）
村上 修一（滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 教授）
- ・ 事務局：
光成 麻美（兵庫県立淡路景観園芸学校）

11. 選考および結果通知

- 1) 一次審査（非公開）
審査委員会は、主旨及び課題を総合的に検討し、本学生コンペの条件に適合した優れた提案を 10 作品程度選考します。
 - ・ 審査委員会は、提出された応募作品により審査します。
 - ・ 提出者の名前は匿名で行います。
 - ・ 一次審査通過者を入賞者とします。
 - ・ 一次審査の結果は、応募者全員に登録され

全国大会案内：学生公開デザインコンペ募集要項

たEメールアドレスへ通知します。

2) 二次審査（公開）

一次審査を通過された作品の応募者には、5月22日（金）に開催する公開プレゼンテーションにおいて応募者本人による提案内容のプレゼンテーションをしていただき、審査委員との質疑応答の機会を設けます（発表5分、質疑応答10分）。審査委員会は、一次審査通過作品のプレゼンテーションならびに質疑応答を参考に、最優秀賞等の選考を行います。

- ・プレゼンテーションは、一次審査提出物と同一内容にしてください。説明のためであっても新たなグラフィックを付け加えることはできません。
- ・盗作防止のため一次審査通過作品については作品画像をWEBで公開します。
- ・二次審査の結果は、5月22日（金）の審査会後に内示します。5月23日（土）の表彰式において正式に発表、表彰されますので、必ず参加してください。不可避の理由なく参加しない場合、入賞は取り消されます。

12. その他

- 1) 審査結果に関する質問や異議には応じません。
- 2) 応募作品およびデータの返却は行いません。
- 3) 失格要件

応募登録用紙に虚偽の記載があった場合、および、応募作品中に応募者の氏名や所属の特定、推測ができる表記があった場合は失格とします。

4) 著作権

応募作品の図面、書類の著作権は、応募者に帰属しますが、公益社団法人日本造園学会は、

本コンペに関して必要な公表、出版についての権利を無料で使用できるものとします。

5) 公表および出版

応募作品の全部もしくは一部、審査経緯、審査結果、講評等をまとめた「学生公開デザインコンペ」の報告を学会ホームページならびに学会誌「ランドスケープ研究」に掲載する予定です。この際、応募者の氏名、所属を公表します。

13. 登録・問い合わせおよび提出先

- ・登録、問い合わせ

学生公開デザインコンペ事務局：

jilacompe@jila-zouen.org（担当：光成 麻美）

- ・作品提出

〒656-1726

兵庫県淡路市野島常盤 954-2

兵庫県立淡路景観園芸学校

インストラクター室 光成麻美宛

*「日本造園学会学生公開デザインコンペ作品
在中」と朱書きしてください。

主催：公益社団法人日本造園学会

共催：全国都市公園整備促進協議会

後援：兵庫県・淡路市

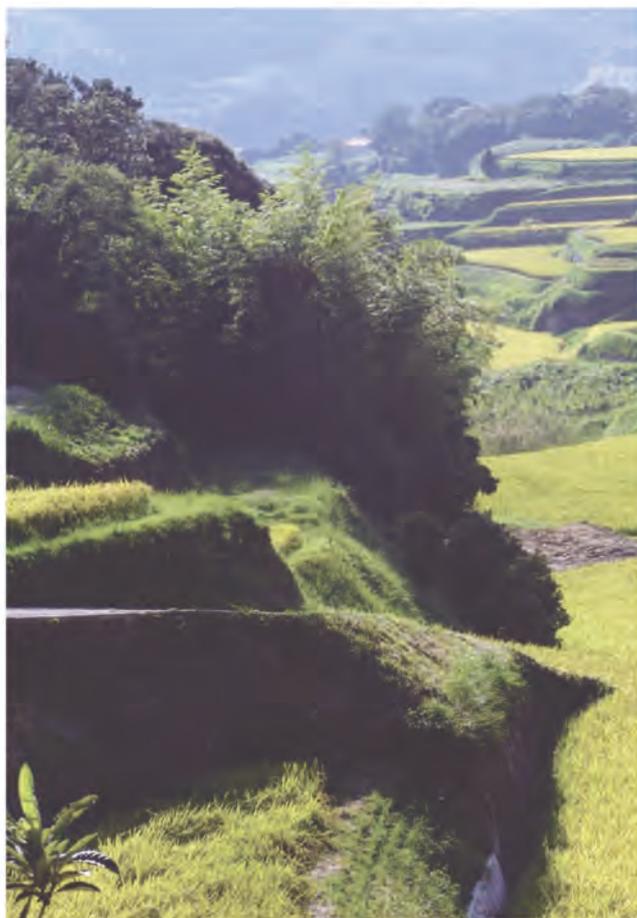
資料2 チラシ



食とランドスケープ

2020 年度日本造園学会 全国大会
学生公開デザインコンペ
対象地：兵庫県淡路市

2020 年度日本造園学会 全国大会 学生公開デザインコンペ



産業景観はランドスケープの重要な資源のひとつとして挙げられます。人のエネルギー摂取源である「食」とそれを支える農業や漁業はどのような時代においても不可欠な存在であり、近年に提唱された循環型社会の形成や美しい国土づくりとの関わりからも、ランドスケープ的な思想が特に必要だと考えられます。

兵庫県南部に位置する淡路島は、古くから「御食国」として朝廷に食料の供給をしていました。その歴史をふまえて発展してきた淡路島は、現在でも「食」をキーワードにした観光が盛んであり、山、海、棚田などの景観資源を生かした地域経営も推進されています。また、淡路島は農山漁村をベースに発展してきた自然環境の豊かな場所ではありますが、関西の中心都市から一時間あまりで移動が可能のため、観光・レクリエーションに適している土地であると同時に、都市部で働く人々の居住地としてもよい環境であると思われれます。一方、同地域の現状は日本全国の地方都市と同様に、高齢化と人口減少が進んでいます。特に就農人口の減少による耕作農地の管理放棄や、過度な開発による海の養殖産業への影響など、淡路島の農山漁村の生活文化やアイデンティティーのある景観の喪失・質の低下、特色のある地域社会の継続性が問題となっており、経済的に自立し、持続可能な地域となることがより一層求められています。

今回の学生公開デザインコンペでは、淡路島の北部に位置する淡路市を対象とし、「食」とランドスケープをテーマに、ランドスケープの視点から提案を行うものとします。この提案を通して対象地の地域振興につながるアイデアが生まれることを期待しています。

「食」とランドスケープ

◆応募資格

高校生、専門学校生、短大生、大学生、大学院生の個人またはグループとする。登録時に学生であれば応募時（作品提出時）に社会人でもかまわない。なお、高校生は一次審査のみ。一次審査終了後、入賞者に連絡する。グループの応募は5名以内とし、グループの場合は代表者を1名とする。専門分野は問わない（ランドスケープ、都市計画、土木、建築、デザイン等）。パネルは日本語または英語、プレゼンテーションは日本語とする。英語のみを使用する者が応募する場合は、日本語によるプレゼンテーション（質疑応答を含む）が可能な者と組んで、グループで応募すること。

兵庫県立淡路景観園芸学校で行われる2020年5月22日（金）の二次審査会（公開プレゼンテーション）と、兵庫県立大学神戸商科キャンパスで行われる5月23日（土）の表彰式へ参加が可能であること。

◆対象地

淡路市内の地域とする。詳細は学会ホームページを参照。

◆提出物

- ◇パネル：A1 サイズ用紙2枚まで。横長方向で使用し、5mm厚程度のパネルに貼る。すべてのパネル裏面右上隅に「登録番号」（サイズ5cm×5cm）を記入すること。
- ◇電子データ：作品の電子データをCD-RまたはUSBメモリで提出すること。

◆スケジュール

- 登録期間 2020年1月31日（金）～4月17日（金）
- 作品の受付 2020年5月1日（金）～5月8日（金）
- 一次審査会 2020年5月10日（日）（非公開）
- 二次審査会 2020年5月22日（金）（公開）
- 審査結果発表・表彰 2020年5月23日（土）

◆表彰の内容

- 最優秀賞（1点） 賞状、賞金（5万円）
- 優秀賞（2点） 賞状、賞金（2万円）
- 佳作（7点程度） 賞状、賞金（1万円）

◆募集要項

日本造園学会ホームページ「全国大会」
<https://www.jila-zouen.org/annualmeeting>

◆登録

右記アドレスに必要事項（応募者氏名、所属（グループの

場合は代表者氏名および構成員の氏名、全員の所属）、代表者の住所、Eメールアドレス、電話番号）を記入し、「コンペ登録希望」をタイトルに入れたメールを送付すること。問い合わせ・送付：学生デザインコンペ事務局 jilacompe@jila-zouen.org（担当：光成 麻美）

◆作品提出先

〒656-1726 兵庫県淡路市野島常盤954-2 兵庫県立淡路景観園芸学校 インストラクター室 光成麻美宛
「日本造園学会学生コンペ作品在中」と朱書きすること。

◆審査委員会

審査委員長：中瀬 勲（兵庫県立淡路景観園芸学校 学長 / 兵庫県立人と自然の博物館 館長）

審査委員：岩井 貴代（株式会社京阪神エルマガジン社 メディアビジネス本部 副本部長 / 一般社団法人 淡路島観光協会 戦略室アドバイザー）

沈 悦（兵庫県立大学大学院環境景観マネジメント研究科 教授）
西辻 俊明（株式会社 現代ランドスケープ 代表取締役社長 / 一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部長）

真崎 加由里（淡路市企画情報部長）

村上 修一（滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 教授）

主催：公益社団法人日本造園学会 共催：全国都市公園整備促進協議会 後援：兵庫県、淡路市

資料3 受賞作品

【最優秀賞】

「巡環する食の源風景の結び方」

Hsuan Lu、笹原洋平（千葉大学）

巡環する食の源風景の結び方

近年、耕作放棄地・閉鎖的なため池・放棄料が増加している。都市部からの中
期滞在を差込み、地域の施設とつなげることで、食の源風景の再活性化をはかる。
淡路市周辺の循環可能な素材を用いて、遠光型社会へ導く。

丹波地区 神戸湾 水鏡地区 中田地区

食の源風景の輪は徐々に広がっていく

CASE2 ノマド軒カフェノマド

CASE3 淡路青少年センター

CASE1 社会福祉法人千鳥会

01 背景

淡路市は食の源風景が魅力的な風景

農産物の生産、加工、流通、消費、廃棄のサイクルを閉じることで、地域の活性化を図る。

02 プログラム分析

淡路市を核として中期滞在を受け入れる可能性

都市部から中期滞在を受け入れる可能性を分析し、地域の施設とつなげることで、食の源風景の再活性化をはかる。

03 コンセプト

放棄地を再利用した食の源風景デザインコンセプト

【コンセプト】 中規模滞在を促進し、食の源風景を再生させる。

【人の関与を促進する】 地域の施設とつなげることで、食の源風景の再活性化をはかる。

【人の関与を促進する】 地域の施設とつなげることで、食の源風景の再活性化をはかる。

04 食の源風景の利用を生み出すアクティビティ

食の源風景の利用を生み出すアクティビティを提案する。

食の源風景の利用を生み出すアクティビティを提案する。

05 敷地提案

敷地提案

敷地提案

06 地域資源の循環から遠光へ

地域資源の循環から遠光へ

地域資源の循環から遠光へ

CASE1 中期滞在型セカンドライフ施設（社会福祉法人千鳥会）

社会福祉法人千鳥会が運営する、高齢者の生活支援施設。地域の施設とつなげることで、食の源風景の再活性化をはかる。

CASE2 中期滞在型オフィス（ノマド村）

ノマド村が運営する、フリーランスの働き手を受け入れる施設。地域の施設とつなげることで、食の源風景の再活性化をはかる。

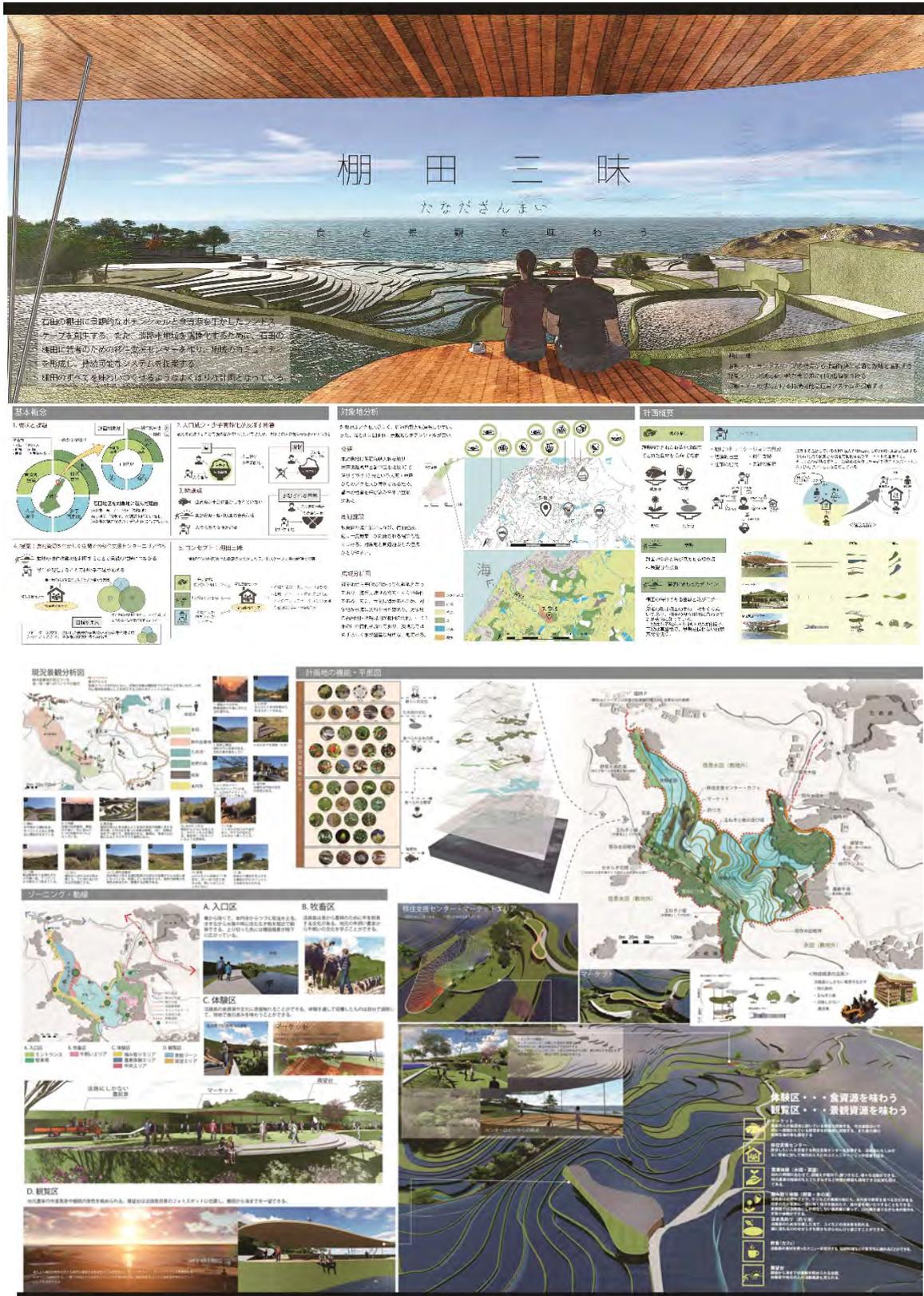
CASE3 中期滞在型農村留学所（淡路青少年センター）

淡路青少年センターが運営する、都市部から農村に滞在する施設。地域の施設とつなげることで、食の源風景の再活性化をはかる。

【優秀賞】

「棚田三昧」

荒巻友里恵、伊藤未羽、柯佩怡、陳宣岐、舟田温子
(兵庫県立大学大学院/淡路景観園芸学校)



【佳作】

「風景を食べる ー生産の風景を生かした新たな観光提案ー」
 山路依梨菜、鯉川哲平、霍広琦（千葉大学）



背景

淡路市では、人口減少に伴い高齢化が進み農家の若い世代が減少している。それにより、兵庫県全体の耕作放棄地は毎年増加傾向にある。淡路市の耕作放棄地も毎年増加しており、他の地域と比べて比較的に面積が多いことがわかる(図1)。

市民意向調査により、淡路市の魅力について「豊かな自然環境」および「野菜や果物などの特産品」と認識している淡路市民が多い(図2)。一方で「観光・交流」は約4%にとどまり、淡路市民の求むる魅力が観光や交流において活かされていないことが察知される。

都市計画マスタープランにより、淡路市のまちづくりにおける課題において「地場産業の活性化」また「都市と農山村の交流」が挙げられている。

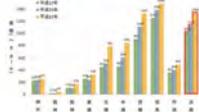


図1. 耕作放棄地の地域別面積推移

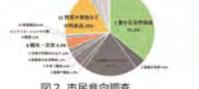


図2. 市民意向調査 (淡路市都市計画マスタープランより)

コンセプト

都市と農山村が明確化された現代において、生産の場と食の場は分離している。都市で生活する人々は、食卓に産み出された食材がどのような場所から来たのか知らないのではない、あるいは全く考えたりもしていないだろう。

この提案では、都市からも近く食材の生産風景が多く見られる淡路島ならではの特性を活かして、体験者が食材を自ら収穫し調理する、淡路島の美しい生産風景を眺めながら採れたての食材を味わう。新たな食の観光提案を行う。

この提案により、淡路島の本質を魅力として体験することで、一時的な観光には留まらない持続可能な地域振興が期待できる。淡路島の魅力を生かした風景を生み出すことで観光客だけでなく、地域住民も改めて地元を見直し、若者のリターンやUターンを促すことができる。淡路島という豊かな自然環境に恵まれた地域には、このような人の行動の"きっかけ"となる空間の提案が必要であると考える。

ある家族の一日

連休に妻と息子を連れて故郷の淡路島に帰ることにした農家の祖父から勧められ、一緒に淡路島の食を堪能する観光客として来た。



提案内容

淡路島の魅力を最大限に活かすため、コンテナを用いて「集ぐ」デザインを行った。コンテナはサイン(デザインモジュール)であり、機能(箱)でもある。



食材を収穫する場は既存の漁港や牧場のほか、耕作放棄地を活用する。耕作放棄地は普段市民農園として利用し、その一部を収穫の場として設定する。食の場は淡路島の景観構成要素である「花」「海」「緑」に着目し、それぞれ「淡路花さじき」「育波港」「長湊の農村地域」を選定した。

全体マップ



各サイトデザイン

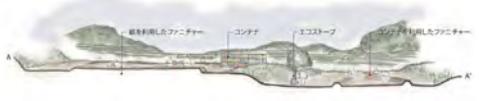


仕組み



本々の仕組みのもう一つの目的は、従来の市民と耕作放棄地の協力的な関係から、地元住民なども巻き込んだ協力的な相互支援の関係を生み出す空間デザインを行うことで、人々の市民農園への積極的な利用を促すこと。仕組みによって耕作放棄地は減少し、また市民農園としての利用を促すことで本提案の仕組みは成り立ち、いく。

SITE2_育波港



【佳作】

「泥産業 一ため池から始まる食質改善の提案」
 山田陽太、大谷理個、濱田千織、中野紗希（立命館大学）



00 ため池大図、旅路島

01 増加する放養ため池

02 泥産業 一持続可能な管理計画

03 かいぼりが食と環境を変える

05 泥の生産サイクル

夏

冬

変化するマッピング

脱水とアクティビティ

暮るエコトーン

